

＜小学校 学級経営＞

一人一人が楽しく充実した生活のできる学級経営をめざして

— 個を生かす学級経営の改善・工夫を通して —

糸満市立糸満南小学校教諭 富 永 真智子

目 次

I	テーマ設定の理由	33
II	研究仮説	33
III	研究内容	33
1	学級経営の意義	33
2	学級経営の方針	34
3	児童理解のための取り組み	34
(1)	教育・心理検査	35
(2)	その他	36
4	学級開きの工夫	37
5	学級だよりの工夫	38
6	授業改善	38
IV	授業実践	
1	主題名	39
2	主題設定の理由	39
3	主題の指導目標	39
4	主題の指導計画と配当時間	40
5	評価計画	40
6	本時の学習指導	41
7	授業の反省	42
V	学級経営案	43
VI	まとめと今後の課題	44

＜小学校 学級経営＞

一人一人が楽しく充実した生活のできる学級経営をめざして

— 個を生かす学級経営の改善・工夫を通して —

糸満市立糸満南小学校教諭 富 永 真智子

I テーマ設定の理由

学校生活のほとんどを学級で過ごしている児童にとって、学級内の人間関係が望ましいかどうかは、重要なことである。教師や級友が温かい心で児童に接し、認め励ましてくれるなら、心を開いて自由に何でも言いあえるよい人間関係ができる。人間関係がうまくいっていると、学級生活が楽しいものになる。学級生活が楽しければ、教科面でも、学習意欲や態度・思考などに良い影響を与えるとされている。

21世紀を担う子ども達への教育の指針を示した第15期中教審の「審議のまとめ」では、子ども達が自ら考える力などの「生きる力」を育成することの重要性が提言されている。これまでの知識注入型の授業から、子ども達自らが学ぶ主体的な学習への転換が述べられ、また、「子ども達一人一人を大切に子ども達が自分のよさを見だし、それを伸ばし、存在感や自己実現の喜びを実感できるような学校であることが重要である」と述べている。

これまでの学級経営を振り返ってみると、

- ・児童に対する理解が不足であった。
- ・教師と児童の関係、児童同士の関係を育てていくことの努力が足りなかった。
- ・学級活動が活性化していなかった。
- ・教室環境から視覚に訴える力が弱いため、児童の日々の学習活動が伝わらなかった。
- ・学級活動すべてがマンネリ化し、児童に活気が見られなかった。

など、楽しく充実した生活のできる学級経営をしていたとはいえなかった。

学級は、一人一人の児童がお互いに理解し合ったり、認め合ったり、存在感を感じたりできる集団でなければならない。そして教師は、児童の知的なもの、運動的なもの、芸術的なもの、人間関係的なものを生かし、それぞれの児童が持つ能力を十分発揮できるように支援していくことが重要である。

児童は一日の多くを学級で過ごしているが、友達に認められ、担任に支えられていろいろなことを体験し、やる気を起こしたり、自信を深めたりしていく。そのような学級生活及び人間関係の中や、教科等の指導の中でさまざまな知識や技能を身につけ、自分の力で問題を解決していくことができると考える。その力が十分に発揮できるためには、やはり学級の人間関係が安定していて、何でも言いあえるような雰囲気にあることが大事である。そのためには、一人一人の児童に着目する学級経営の在り方が大きなカギになってくる。

個を生かす学級経営の改善・工夫を通して「またあしたも学校に来たい」という気持ちを持たせ、一人一人が楽しく充実した生活のできる学級経営をしたいと思い、本テーマを設定した。

II 研究仮説

児童一人一人の能力や興味・関心・適性を的確に把握し、個を生かす学級経営の改善・工夫をすることにより、児童が最も個性を発揮し、楽しく充実した学級生活が送れるであろう。

III 研究内容

1 学級経営の意義

学級経営とは「一人一人の児童の可能性を学級（学校）における活動を通して、発見し、伸長する計

画的・意図的な営みである。また、児童を正しく、深く理解し、それに基づく集団指導と個別指導を意図的にくみこんだ働きかけによって、児童に自己変容を促していく営みでもある。更に、学校の教育目標を具現化する場であり、学年目標や学級目標にそって学習指導や生活指導を行う営みでもある」『よりよい生き方を育てる学級・学年経営』より

児童にとって学級は、学校での学習や生活の基盤となるところであり、そこでのさまざまな経験が一人一人の児童の成長に大きな影響を与える。担任は、学校の教育目標をふまえ、一人一人の児童の可能性を最大限に伸ばし、望ましい豊かな人間形成を図るようにする責任がある。学級が児童にとって望ましい学習集団・生活集団となっていくように、人的・物的な両面から創意と工夫をこらして、計画的、意図的、継続的に働きかけることが大切である。

学級経営の具体的活動領域として、①学級における教育課程の経営、②人的条件の整備、③物的条件の整備、④事務的諸活動の四領域がある。

2 学級経営の方針

児童は、友達と仲良く楽しい学校生活を送りたい。勉強もよく分かり、認めてもらいたいという様々な願いを持って学級の一員となってくる。その願いをくみとり、児童の学級内の人間関係を調整し、学級集団を望ましいものに育てていく課程で、一人の仲間はずれもなく、一人一人のよさを認め合い、高めあって、思いやり、連帯感のある学級作りをしていきたい。また、それと同時に、どの児童にとっても居心地のよい学級作りをめざしていきたい。

担任は、一人一人の児童を一面的、表面的にとらえることなくより正しく、より深く、より広い理解のうえにたって、それぞれの児童の持っている可能性を最大限に発揮させ、豊かな人間性を持つように援助していきたい。常に温かい目で児童を見つめ、敏感でしかも広い心をもって児童に接し、児童のそれぞれの能力を発揮する場を、どんなに小さなものでも見つけ心をかけてあげたい。そして、そうすることで児童のやる気をおこしていきたい。

- (1) 学校・学年・学級目標の達成を常に考えて学級作りをしていきたい。
 - (2) 児童一人一人の心や個性を大事にし、育てていきたい。
 - (3) 児童と教師、児童相互の心のふれあいを大切にし、お互いに認め合い、励ましあえる人間関係を作り、自由に語りあえる親和的な雰囲気学級生活を送れるようにしていきたい。
 - (4) 学習意欲があり、深く考えて問題を解決したり、行動したりできる児童を育てていきたい。
 - (5) 学習の遅れている児童には、原因やつまづきをはっきりおさえ、原因となるものへの働きかけをしたり、つまづいている箇所へ戻ったりして、常に個別指導の手をさしのべ「できる喜び、わかる喜び」を味わわせ、やる気を持たせるように指導していきたい。
 - (6) 優しい心・思いやりの心をもち、いじめや差別もなく、どの子とも仲良くできる児童に育てていきたい。
 - (7) 豊かな心を持ち、誰にでも明るく挨拶ができる子に育てていきたい。
 - (8) 忍耐力の大切さに気付かせながら、まかされた仕事は責任を持って最後までやり通す子に育てていきたい。
 - (9) 読書習慣をつけるため、読み聞かせをしたり、図書館利用の奨励をしたりしていきたい。
 - (10) 話の仕方、話の聞き方を、掲示資料を通し身につけさせていきたい。
- 以上のことを中心に学級経営に努めていきたい。

3 児童理解のための取り組み

児童一人一人のよさを生かし、可能性を伸ばすためには児童理解が大事であり、学級経営を進めるにあたって最も大切な基盤となるものである。具体的には、身体的発達、知的能力の発達、感情・情緒の発達、道徳性の発達、集団意識と活動の発達の特性などがあげられると思う。

児童理解のための手段として、教育・心理検査や、一人一人の児童の追跡・累積的な観察資料、指導

要録、家庭調査表、個人面談、家庭訪問などがある。

児童一人一人は、かけがえのない大切な存在だということを常に心にとめ、温かい心で接し、そのよさを認め、ほめて励まし、そして一人一人の小さな変化にも気づき、温かい声かけをしてあげられるような学級経営に努めていきたい。そこで、下記の検査を行い児童理解の手立てとしたい。

(1) 教育・心理検査

① 生徒指導のための検査（P O E M）

児童の個性の理解、不適応行動の発見・予測に基づいて児童の個性が伸びるような、また不適応行動へと進まないような指導を行うため、学級の特徴を理解するために行った。

<学級の特徴>

ア **受容感** （どれくらい周囲から受入れられて
いると感じているか）

- 男子は日常生活に適応している児童が多いが女子は独善的となる傾向が強い児童が多い。もっと他人の考えや意見を聞き、反省させる機会を持たせたい。

イ **効力感** （どれくらい自信があると感じているか）

- 男子は、失敗や困難な状況に直面してもくじけずに最後まで頑張りぬくことができる児童が多いが、女子は他人に対して支配的で傲慢な態度が強く、他人の意見を聞かない児童が多いようである。他人の立場を理解し、人の意見にも耳を傾けさせたい。

ウ **セルフコントロール** （自分の気持ちや感情
を自分でコントロールできるか）

- ほとんどの児童が思うようにならなくても癪癪をおこさず我慢強く解決に努力することができる。

エ **不安傾向** （一般的な不安傾向がどれだけ強い
いか）

- 全体的に意欲が強く、適度な緊張で集中力が高まり結果として課題に成功する可能性が高い児童が多い。

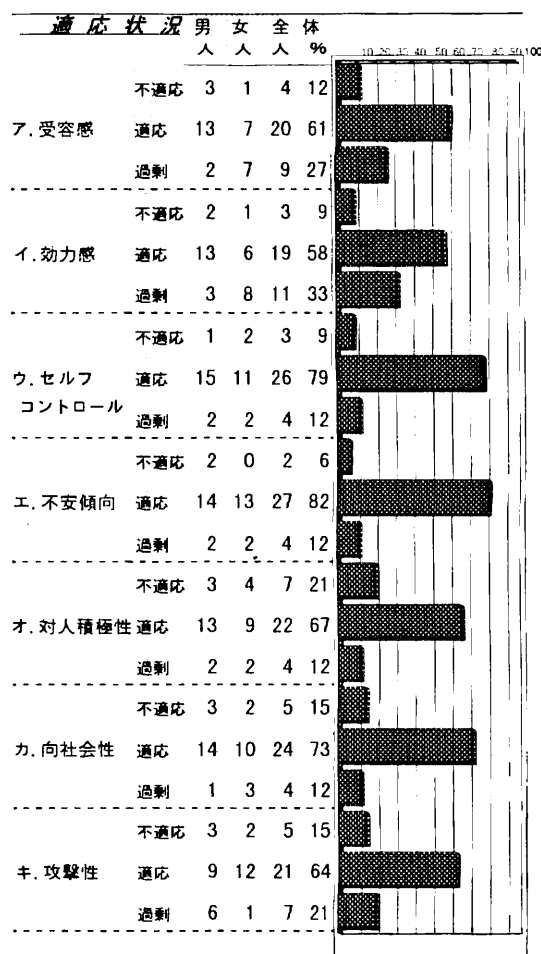
オ **対人積極性** （自分の考えをどれくらい主張
できるか）

- 引っ込み思案で、思ったことを積極的に伝えられず人の言いなりになりやすい児童が7人いる。能力に応じた発表の機会を多く作って自信を持たせるようにしたい。

カ **向社会性** （他人に対する思いやりや道徳的
傾向がどれくらいあるか）

- 他人の心情や立場が理解できないため自分勝手にわがままな傾向が強い児童が7人いる。相手の話をよく聞き相手の気持ちをよく考え、協力してものごとができるような指導をしたい。

[適応状況の出現率]



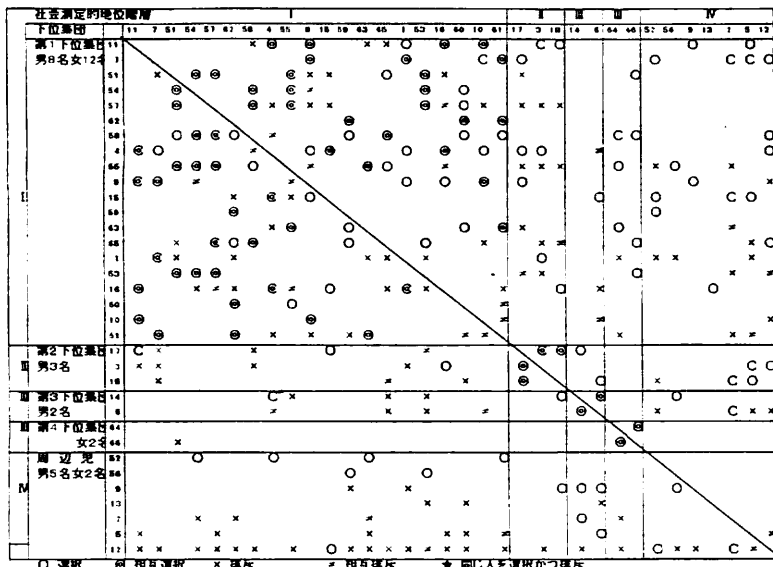
キ **攻撃性**（攻撃的な気持ちや傾向がどのくらいあるか）

・男子は、ものごとに向上しようという意欲が低く、消極的、競争心がなく、いいなりになりやすい児童が6人いる。他人の意向を気にし過ぎないでもっと積極的に振るまえることができるような指導をしていきたい。

② 道徳・学級指導のための検査（ソシオメトリックテスト）

学級内での人間関係の心理的診断を行うもので、これをもとに学級集団の中での生活を、すべての児童により楽しく、より快適なものに改善していく指導に役立てる。

〔集団構造マトリックス〕



(2) その他

指導要録、家庭訪問、家庭調査表、個人面談などで教師が児童を理解することは大切なことである。

一人の児童がよく遅刻をするようになったが、たずねても何も理由を言わず、原因がつかめなかった。しかし、個人面談で、弟の面倒を見ているためだと分かり、驚いたことがあった。

児童の行動一つを取って、その児童を評価してはいけない。児童の環境を知り、対応の仕方考えることが必要である。その児童にとって、教師が理解してくれることや、学級のまわりの児童たちが理解してくれることは、学級が楽しくなることにつながる。

児童理解は、教師にとって重要なカギを握っているといえる。



＜資料からの読み取り＞

ア 教師から見ると、おとなしく目立たない児童が、クラスの人気を集め中心人物になっていることが分かった。優しさ、温かさが級友からの人気を集めているのであろう。その児童の優しい面を見つけた時、すぐみんなに知らせるなどしてよい面をもっと伸ばしていきたい。

イ 誰からも選択されていない孤立児はいないが、1人の児童は21人から排斥されていて、問題が深刻である。しかし、かれを3人の児童が選んでいることはうれしいことである。また、かれもその3人を排斥していないのは幸いである。そこでその児童たちと隣の席にするなどして温かく抱き込む配慮をしたい。

4 学級開きの工夫

新学期になると、児童も親も、どんな先生かな、どんな友達がいるかなと期待と不安を持って登校してくる。そんな児童の心を開かせ、一年間の方向性を持たせ、このクラスでよかった、楽しくやっていけそうだという気持ちを持たせるような演出をしたい。

(1) ねらい

みんなで楽しく学級開きをし、一日も休まないぞという気持ちになり、クラスへの愛着を持つことができるようにする。

(2) 展開



5 学級通信の工夫

学級通信は、保護者と担任との結び付きを深め、互いに協力して児童の健全な成長を図っていくために大切なものだと考える。保護者は、学級通信の内容から学級での児童の学習や生活の様子を知り、励ましの材料とすることができる。また、児童一人一人の思いを伝えたり、作文力や絵（イラスト）の表現力を高めたりすることができ、担任は、学級経営の改善・工夫にも役立てることができる。

＜基本的な考え方＞

- (1) 誤字・脱字に注意して、わかりやすい文章を書くように
ころがける。
- (2) 訓戒・説教じみたことは避ける。
- (3) 児童のエピソードを取り上げ、親しみやすい内容にする。
- (4) 「保護者の声」などの欄を設け、コミュニケーションを図る。

＜発行方法＞

- (1) 一斉指導として、通信のねらいを話す。
- (2) 書き方を教えるために、最初は一人ずつ全員に書かせる。
- (3) 後からは、4人ぐらいつつで作る。（イラストの係・四コマ漫画の係・文の係など、得意なもののコーナーで、個を生かすようにしたい。）
- (4) 児童が書きやすいように、割り付けは担任が中心になって行う。
- (5) 題名のレイアウトは児童に工夫してもらおう。学級の全員が分担できるよう順番とする。

（A4縦書き）

〇〇小学校 〇年〇組	
四 コ マ 漫 画	今、わたしたちは等…… 〇〇通信 題字() 年月日号
日記等	ニュース 作文 詩
お知らせコーナー	先生コーナー 連絡 おはなし おたより 格言等
保護者コーナー	

＜留意点＞

- (1) 通信名は募集の仕方を考えてやっていきたい。
- (2) 保護者の意見を掲載するときは、内容をよく検討しワープロでうちなおして載せる。
- (3) 書けない保護者の場合、電話などで取材しておいて教師が代筆し、児童に心配かけないように配慮する。
- (4) 係は、かたよらないように変えたりする。

家庭と教師が手を取り合うことが児童の意欲につながり、学校での様子を知ることによって家庭教育に生かされる。児童に生き生きとした学級生活を送らせるため、学級通信を発行していきたい。

6 授業改善

学級において毎日行われている授業。すべての児童が、今日の勉強は楽しかった、また明日も頑張ろうというような授業を作っていくことは大事なことである。

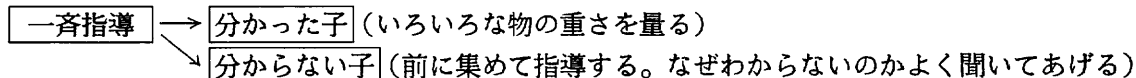
「個性尊重」「個を生かす教育」がいわれている今日、学級の児童の間にある学習上の到達度の違い、個人差を認識し、児童一人一人を生かし育てるための新しい指導の在り方を考えなければならない。個を生かすための手立てとしていろいろな方法があると思うが、次の4つの方法で授業改善に努めていきたい。

(1) 指導過程の工夫

① 指導形態

- ・T・T授業に近いような個に応じた指導内容を作成する。

(例)「はかりを使って重さを量る授業」



- ・教科や内容によって、一斉・グループ・能力別指導など、多彩な学習形態を採るようにする。

② 形成的評価

授業の中で、形成的評価をする。（一人一人の学習内容の変化を正しくとらえ、記録しておく）

(2) 体験的学習・問題解決的学習

（自ら学ぶ授業……学習計画を児童にたてさせる）

生涯学習の基礎を培う観点から、学ぶことの楽しさや成就感を体得させ、自ら学ぶ意欲を育てるため、体験的な学習や問題解決的な学習を重視する。自ら学ぶ目標を定め何をどのように学ぶかという主体的な学習の仕方を身につけさせることが大切である。

- ・賞賛・承認などを的確に行い、意欲を盛り上げる工夫をする。
- ・自分なりに課題を決めて、最後までやりきっていくように励ましその子らしさが表れるようにする。

(3) 個人差に応じた指導

これまでの授業は、教師が与える知識や技術を児童の頭の中に埋めていくこと、いわゆる詰め込み教育が行われてきた。しかし、児童は既習の内容、学習に必要な時間、学習におけるメディア、空間、人間関係、学習の進め方が一人一人違っているので、個人差に応じて指導をすべきである。

早くできた児童には、既習問題を多く取り入れたプリントやドリルを用意してさせるとか、自由勉強をさせ自ら学ぶような態度を育てるようにする。

(4) 教育機器の活用

いろいろな教育機器を利用し、児童の興味・関心をひきつけていく。個を生かすためには、係の児童にテープやCD、OHPの操作を通して慣れさせるようにする。一日の中に一回は、できるだけ教育機器を利用して充実したものにしていきたい。

IV 授業実践

1 主題名

『見つけたよ よいところ』

2 主題設定の理由

学校生活のほとんどを学級で過ごしている児童にとって、学級内の人間関係は重要である。教師と児童、児童同士がお互いに認め合うような望ましい人間関係を育てることで、一人一人が個性を発揮し楽しく充実した学校生活を送ることができると考える。

しかし、児童の様子を観察すると、明るく元気があるが、悪口を言い合う、相手の心を傷つけても平気、どの子とも仲良くしようという気持ちが薄い、独りぼっちな児童がいても誘って遊ぼうとしないなど、望ましい人間関係が十分であるとはいえなかった。

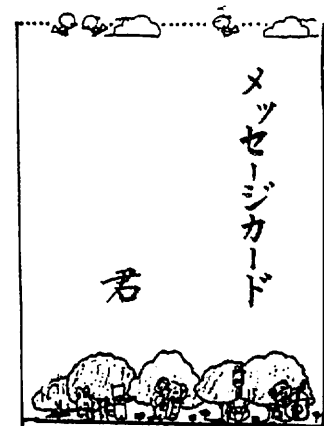
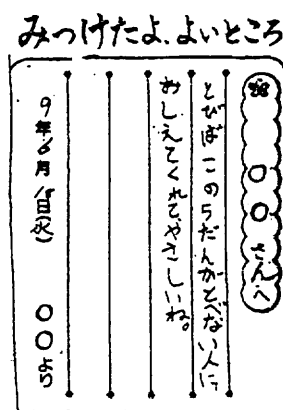
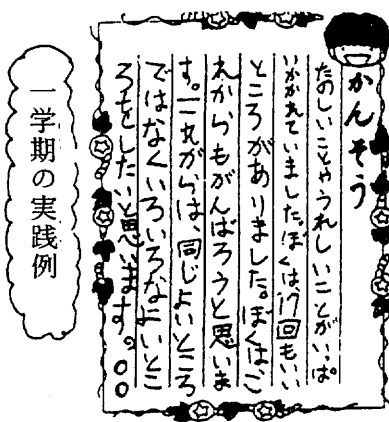
そこで、児童がお互いのよい所を見つけ励まし合うことにより、温かい人間関係を育てることができると考え、本主題を設定した。

3 主題の指導目標

- (1) 認められているという喜びを味わわせる。
- (2) 自分の知らなかった、級友のよい所に気付かせる。
- (3) 自分を高めていこうという気持ちを持たせる。
- (4) お互いのよい所を見つけ合い、望ましい人間関係を作っていこうという気持ちを育てる。

4 主題の指導計画と配当時間

	項 目	日・時間
(一学期)	1 級友のよい所を見つけ『見つけたよ よいところ』のメッセージカードを書き、学級のポストに入れる。	6月18日～30日随時
	2 級友からのメッセージカードを読み、感想を書く。	本時1時間
(二学期)	3 級友のよい所を見つけてカードに書き、一人一人の新聞に貼ってあげる。	11月随時
(三学期)	4 自分の新聞に貼ってあるカードを読んで、感想を書き発表する。	1時間
	5 保護者から見た、児童のよい所を手紙に書いてもらい、掲示する。	2月随時
	6 保護者からの手紙を読んで、返事を書く。	1時間



(表紙)

5 評価計画

評 価 の 観 点	具 体 的 な 評 価 項 目
[関心・意欲・態度] 学校生活の向上やよりよい生活を目指し、身の回りの諸問題に関心を持ち、友達と協力して望ましい行動をしようとする。	①級友のよい所を見つけ、励ますことができる。 ②これからも自分を高めていこうとする意欲を持つことができる。 ③よさを認め、励ましあえる温かい人間関係作りに、意欲を持つことができる。
[思考・判断] 集団における自己の役割を考え、身のまわりの諸問題の解決を目指して判断している。	①多くの級友のよい所を見つけることができる。
[技能・表現] 話し合いや集会など友達と活動する過程において自分の考えを的確に発表したり集団活動を進めるために必要な技能を身につけている	①よい所を見つけてくれた級友に感謝の気持ちを持ち、感想を書くことができる。 ②感想を積極的に発表することができる。
[知識・理解] 生活や学習への適応、健康で安全な生活、集団活動の進め方などに関する基礎的な事項を理解している。	①メッセージカードを通し、相手のよい所がわかるように書くことができる。

6 本時の学習指導

(1) 主題名

『見つけたよ よいところ』

(2) 本時の目標

- ①級友から認められているという喜びを味わい、自分を高めていこうとする意欲を持つことができる。
- ②発表を聞き、自分が知らなかった級友のよい所に気付くことができる。
- ③児童が、お互いのよい所を見つけ合い、望ましい人間関係を作っていこうという気持ちを持つことができる。

(3) 授業の仮説

学校生活のほとんどを学級で過ごしている児童にとって、個性や能力を十分発揮し、望ましい成長を遂げるには、学級内の人間関係がうまくいっていることが大切である。児童がお互いのよさや成果を認め合い、励まし合える学級であれば、学校生活を楽しく充実したものにし、教科面でも、学習意欲や態度・思考などに良い影響を与えるものであると考える。

級友のよい所を見つけ、それをメッセージカードとして出すことにより、受け取った児童が、認められているという喜びを感じて、楽しいクラスだ、もっとよい所を伸ばそう、自分も級友のよい所をもっと見つけてあげようという気持ちになれば、一人一人が楽しく充実した生活のできる学級経営になるであろう。

(郵便屋さんになったよ)

(4) 教師の準備

- ①児童の書いたメッセージカードを綴ったもの
- ②郵便屋さんの帽子・かばん（2個ずつ）
- ③発表する時、聞く時の注意書き
- ④児童の顔写真を貼ったもの

(5) 評価

〔関心・意欲・態度〕

- ①メッセージカードの配達や受け取りを喜んでやる。
- ②自分のよい所を伸ばしていこうとする意欲を持つ。

〔技能・表現〕

- ①感想を進んで発表する。



(6) 展開

	児童の活動	指導上の留意点及び支援	評価
導入 5分	①ゲーム	・みんなで仲良く楽しくルールを守ってできるようにする。 ・チャンピオンは名誉であることをしっかりおさえ、賞として郵便屋さんになってもらう。	
展開 35分	②郵便屋さんになった児童が、メッセージカードを配る。 ③自分へのメッセージカードを読み、感想を書く。	・郵便物の大事さを確認し、ていねいに配達させる。 ・受け取った児童はお礼を言って、机の上に開けずに置いておくようにする。 ・見つけてくれた級友への感謝の気持ちを持って、そのメッセージから自分の感想を書かせる。 ・自分の気付かなかったよさを見つけ、これからも伸ばしていく大切さを知らせる。	(関) ① (関) ①

	④感想を発表する。	・自分を、より高めていこうとする気持ちを持たせるようにする。 ・なかなか書けない児童には、言葉かけをしながら手助けする。 ・大きな声ではっきりと発表できるようにする。 ・相手の気持ちになり、発表を最後まで聞けるようにする。 ・自分が気付かなかった級友のよさをも見つけることができる。 ・メッセージカードは大事にとっておくように声かけする。	(関) ② (表) ①
まとめ 5分	⑤まとめと次時予告	・認め励まし合うことの大事さをおさえる。 ・これからも、級友のよさをたくさん見つけていこうとする意欲を図るように励ます。 ・次時予告	

(7) 評価

	関 心 ・ 意 欲 ・ 態 度		技 能 ・ 表 現
評価 規 準	メッセージカードの配達や受け取りを喜んでやることができる	自分のよい所を伸ばしていこうとすることができる。	感想を進んで発表することができる。
評価 基 準	A お礼を言いながら、喜んで受け取ることができる B 喜んで受け取ることができる。 C 黙って受け取ることができる。	A これからも、自分の良い所を増やしていこうと感想に書くことができる。 B 自分の良い所を続けていきたいと感想に書くことができる。 C 喜びを感想に書くことができる	A 進んで大きな声で発表することができる。 B 発表することができる。 C 支援を受けながら、発表することができる。
番号	名前		

7 授業の反省

- ・どの児童もメッセージカードを喜んで受け取っていたので、よかった。
- ・メッセージカードを読んだ感想は、ほとんどの児童が書いていたので安心した。
- ・おもいがけなく男子が女子からもらったり、女子が男子からもらったりして喜んでいるのを見るとこの授業をやってよかったと思った。
- ・お互いの悪い面に目がいきがちだったのが、よい所を見つけてもらったときの喜び・見つけてあげることでできた喜びを感じることができて、これからはお互いの良い面を進んで見つけていこうとするのではないかなと思うと、うれしくなってきた。
- ・発表する力、書く力は、ふだんからつけておきたい。

(感想を書いているところ)



(感 想 発 表)



V 学級経営案

平成○年度 第○学期 学級経営案

○年○組 担任 富永 真智子

1 学校の教育目標 (1) 健康で明るい子 (2) 心豊かで親切な子 (3) すすんで学習する子	2 本年度の重点目標 ◎ すすんで学習する子
3 学年目標 (1) よく聞き、進んで発表する子 (2) 最後までがんばる子	4 学級目標 ◎ 楽しく遊び、しっかり学ぶ、笑顔のあるやさしい子 ◎ 最後までやりぬく子

5 学級の実態

在 籍	学区毎の人数	家族構成	血液型	特に指導を要する児童
男子 ()		マル秘事項		
女子 ()				
合計 ()				

6 学級経営の方針（P.34に記入）

7 各教科領域の経営方針

(1) 学習指導

- ・指導形態の工夫
- ・個人差に応じた指導
- ・形成的評価
- ・体験的、問題解決的学習
- ・教育機器の活用

(2) 生徒指導

- ・基本的な生活習慣を身につけさせるために、一人一人の児童理解に努め継続的に指導援助を行う。
- ・人に対する思いやりの心を育てる。

(3) 道徳

- ・道徳的判断力を高め、実践力を養う。
- ・善悪の判断をしっかりとつけさせる。
- ・周りの友達の心を大切にさせる。

(4) 教室経営

- ・学習意欲を高め、新鮮な刺激をいつも与えられる教室作りに努める。
- ・明るく清潔で、落ち着いた学習の場とする。
- ・採光、換気、安全にも気を配る。

VI まとめと今後の課題

本研究で、個を生かす学級経営の改善・工夫を通して、一人一人が楽しく充実した生活のできる学級作りを考えてきたが、

- ・学級経営の最も大切な基盤は、児童理解である。
 - ・褒めて、認めて、伸ばしていくことが大事である。
 - ・認め合い、励ましあえる親和的な雰囲気のある学級であれば学習意欲もわき、一人一人が個性を発揮し、よさが生かされていく。
 - ・クラスの人間関係を望ましいものにすること、支持的風土の学級作りは、教師の大切な役目である。
- ということが分かった。

今後の課題として

- ・学級経営案を学期毎に見直し、修正していく。
- ・児童を温かい気持ち、優しいまなざしで見つめ、個を生かした実践に努める。

<主な参考文献>

月刊誌	『楽しい学級経営 4・5・6・7・8・9月号』	明治図書	1997年
瀬戸真	『よりよい生き方を育てる学級・学年経営』	ぎょうせい	1994年
片岡徳雄	『個を生かす学級を育てる先生』	図書文化	1991年
加藤幸次	『個性を生かす先生』	図書文化	1989年
宗内敦	『指導力の豊かな先生』	図書文化	1988年
杉山正一	『家庭連絡・通信のじょうずな教師』	東洋館出版社	1976年
石川正夫	『学級だより 作り方を知りたい』	東洋館出版社	1995年
高橋俊昭	『互いに認め合える生徒を育てる学級経営』 (群馬県総合教育センター研究報告書第146集)	群馬県総合教育 センター	1994年
下村哲夫他	『学級経営の基礎・基本』	ぎょうせい	1994年
倉田かんじ	『個のよさを伸ばす小学校の学級経営』	明治図書	1991年
吉本二郎他	『学年・学級経営』	ぎょうせい	1979年